

## オーストラリア研修 6日目（3月12日）

今朝は、学校全体の HR が屋根付きの広場であり、ミサの後に本校が紹介され、出し物として、中部ウェーブとマツケンサンバの歌と踊りをした。中部ウェーブの見本をした時はとてもう



けがよく、その流れで全校生徒にもしてもらった。はにかみながらも面白がって中部ウェーブしてくれた人が多かった。次に、マツケンサンバを音楽に合わせて踊ったり歌ったりした。「この曲は日本ではとても有名な曲で、聴くと皆ハッピーになれる」と始める前に紹介したからか、生徒だけではなく、先生方も興味をもって楽しそうに見てくださった。踊り終わって拍手に混じって指笛が聞こえたときはとても嬉しかった。

その後、Coffs Coast Wildlife Sanctuary へ行った。ここでガイドをしてくださったのは日本の女性だった。15歳の時にオーストラリアに留学したことがきっかけで野生動物の保護の勉強がしたくなり、ここに住むようになって10年になるそうだ。日本語が話せるので、難しい英語は日本語で話してくださった。最初に動物の分類などについて簡単に説明を受けてから、2班に分かれて施設の見学をした。ウミガメのコーナーでは、世界に6種類いるウミガメのうち3種類がこのコフスハーバーにいるので、コフスハーバーはとても大事なウミガメを保護する拠点だということ、また、水



面に浮いているのは体内にガスが溜まっているからで、このまま海に帰すと沈めなくて生きていけないことなど教えてくださいました。甲羅の一部が欠けていたり浮いているだけで動けなかったりするカメもいた。表情はどこか辛そうで寂しげで、私たちができることは何かと問われ、「切れた釣り糸をそのままにしない」や「レジ袋はゴミ箱に捨てる」などの意見が出た。イルカは3頭いて元気そうだったが、この施設で生れたので野生に帰せないようだ。アシカやペンギン、様々な種の魚などもいた。ペンギンは背中が光の当たり具合によっては青く見えるので「ブルーペンギン」というようだ。大きさは30cmほどの小さなペンギンで、絶滅危惧種だそうだ。もし自然界で増やすのなら自然に帰すことも考えると教えてくださいました。



ここではイルカ&アシカショーをしていて、最後にイルカがプールの端を仰向けに泳ぎ、おなかを触らせてくれた。

ここでは傷ついた動物を保護し、回復したら野生に帰すことをしているが、すべての生物が棲みやすい環境を維持できるように私たち一人一人ができること、すべきことを考えて実行すれば、施設に保護される個体数は減ると思う。



今日は約35℃あったらしい。雪が降っている富山とのギャップが大きい。

